

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後 平成 21 年 3 月 17 日 作成
20年度決算把握後 平成 21 年 6 月 11 日 作成

事務事業名	ことぶき大学事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	教育委員会事務局	課長名 高木 敏明
	施策	16	高齢者・障害者の自立促進と社会参加	所属課	生涯学習課	担当者名 合志 新一
	基本事業	47	高齢者の社会参加促進	所属班	生涯学習班	(内線) 2421
				法令根拠		

予算科目	会計	款	項	目	事業連番	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	5
	1	10	5	3	10445			コスト削減優先度評価結果	9*4

事業期間 単年度のみ 単年度繰返(開始年度 昭和43 年度) 期間限定複数年度 (~ 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】
向学意欲のある高齢者に元気に学習していただくことで、生涯現役での社会参加を促進する
【業務の流れ】
5月から翌年3月までの月1回合計10回の月替わりの講座を御代志市民センター講堂で開催し、様々なテーマで高齢者に応じた生涯学習講座を実施する。講座への出席率が高い受講生には年度末に精勤賞を贈っている。また、受講生からの投稿や実施講座記録をまとめ、年度末に記念誌を作成し、受講生に配付している。遠方からの参加者には市バスを提供している。
【主な予算費目】
報償費(講師謝金) 雲田費(記念誌作成代)

1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) 生命尊重講演会、男女共同参画まちづくり講座、社会を明るくする運動講演会、話し方講座、健康講座、研修旅行、健康運動講座、おしやれ講座、裁判員制度講座、ハンセン病啓発講座、地域防犯講座	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) 市長講話、男女共同参画講演会、社会を明るくする運動講演会、健康講座、消費者生活基礎講座、研修旅行、他5講座
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 旧西合志地域の60歳以上の市民	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 講座実施回数 回 イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) ことぶき大学の受講生が増える	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 旧西合志地域の60歳以上の市民 人 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 地域に仲間がいる	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア ことぶき大学の受講生(参加延べ人数) 人 イ
	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 老人クラブへの加入者数 人 イ サロンへの参加者数 人

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限定 複数 年度 のみ 記載) 0 0 0
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	一般財源	千円	279	180	130	103	130	130	130	
	(A) 事業費計	千円	279	180	130	103	130	130	130	
	うち指定経費	千円								
	うち時間外、特殊勤務手当	千円								
	人件費									
正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	1		
延べ業務時間	時間	300	280	280	280	280	280	280		
(B)人件費計	千円	1,191	1,114	1,114	1,114	1,114	1,114	1,114		
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,470	1,294	1,244	1,217	1,244	1,244	1,244		
活動指標	ア イ	回	11	11	11	11	11	11	11	目 標 合 計 値 画 22 年 度
対象指標	ア イ	人	5,200	7,410	7,500	7,739	7,600	7,700	7,800	
成果指標	ア イ	人	1,948	1,795	2,100	1,934	2,100	2,100	2,100	
上位成果指標	ア イ	人	3,738 8,325	3,738 8,325	3,300 6,500	3,300 6,500	3,950 9,860	3,950 9,860	3,950 9,860	

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
「ことぶき大学」は昭和43年、高齢者の教養向上と社会参加を目指して開設された

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
人口の高齢化が進行していて、年々対象者は増加しているが、高齢者増加率よりことぶき大学受講者数増加率のほうが少ない。この背景には、生き方の多様化があれば、ことぶき大学以外の場所で高齢者が社会参加できる場所が増えているからだと思われる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
特記なし

事務事業名	ことぶき大学事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	----------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 高齢者に生きがいを持ってもらい、元気に学習していただくことで、生涯現役の社会参加を促すことに結びつく
	②公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 生涯元気に学習していただく高齢者が多数存在することで、高齢者の社会参加を促進することにつながるため妥当である
	③対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 対象、意図は現状で適切である
有効性 評価	④成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 講座参加者が、近年固定化してきている
	⑤廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 現在の事業を楽しみにしておられる受講生がいるので、この事業を止めるとなると高齢者の自立支援と社会参加の機会をなくすことになる
	⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒(具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 旧合志地域の高齢者を対象とした「高齢者教養講座」が行われていて、これとの統合が可能である。 <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 現在、この事業にかかる費用は、講師謝金の記念誌作成代で、これ以上の削減は難しい
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 旧合志地区の「高齢者教養講座」と合併できたなら、人件費の削減も可能である。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 講師謝金などは、受講生の会費でまかなうのが受益者負担にかなうものと思われる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	①目的妥当性については、生きがい創造していて適切である。 ②有効性については、類似講座との合併など見直しの余地がある。 ③効率性については、類似講座との統合により人件費が削減できる。 ④公平性については、受益者負担について見直しの余地がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策				
-----------------------------------	--	--	--	--

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1)目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2)貢献度	6	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)